

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

パーム油、環境に打撃

児童労働や農薬被害も

インドネシアには、パーム油の原料となるアブラヤシの農園がたくさんあります。パーム油はシャンプーやせっけん、化粧品などの生活用品から、マーガリン、チョコレート、カップラーメンといった食品まで幅広く利用されています。

インドネシアのパーム油の生産量は世界最大です。アブラヤシの作付面積は2011年時点で約600万^{ヘクタール}に達し、青森、岩手、宮城、秋田、山形の5県を足した面積を大きく上回りました。

農園を拡大するため、今も森林が大規模に伐採されています。たくさんの植物や動物が生きていた森林がヤシだけになり、例えば樹上で暮らすオランウータンは、すみかを奪われています。

泥炭湿地林という地中に炭素分を多く含む森林が農園として開発されることにより、大量の二酸化炭素（CO₂）が空気中に出ているそうです。

アブラヤシの実は一房で数十^{キログラム}と大変重く、農園で働く人たちは重労働を強いられています。農園の労働者には子どもや、バングラデシュなどから来た不法就労者らもいます。農薬による労働者の健康被害も指摘されています。土地をめぐる先住民との紛争といった問題も解決していません。

最近注目されているのは、パーム油の製造過程を透明化して、環境面や人道面で問題のない油をつくる取り組みです。日本に最も多くのパーム油を輸入している不二精油や、三井物産をはじめとする商社、花王、資生堂といったメーカーなどが参加しています。

しかし金融機関は加わっていません。欧米では多くの金融機関が参加しています。

パーム油の生産や販売などに関わる企業と取引している金融機関は日本にもあります。パーム油にかかわる問題をもっと重視してほしいと考えています。

（株式会社グッドバンカー）